

幼児クラスでは例年通り、大きな紙に絵の具を使っての色遊びから作品制作に移りました。今回の制作は『クルクル回るもの』というテーマで行ない、コマや風車などを作りました。幼児クラスの子供達は、長い時間の制作には慣れていませんが、とても集中して制作出来ていました。また、回転するモノの見え方や長く回す方法など、ゆっくりと説明すると意外と理解してくれました。

小・中学生クラスでは、昨年度は立体作品の制作だったので、今回は平面表現と立体表現の両方が出来る作品制作を行いました。具体的には作品制作の原点に戻って、絵画のバックの上に立体作品を配置する、大きなボックスア



ト状の物を制作しました。素材に特別な材料は使わずにバックの絵は紙にアクリル絵具、手前の立体は新聞紙を

インフルエンザへの対応について

国内でのインフルエンザの流行が懸念されてから随分と経ちますが、連日のニュース報道の通り、横浜地区でもインフルエンザの患者数が増加しています。東戸塚アートを中心に、数名の生徒さんがすでにインフルエンザに感染し、スクールや学校を休みましたが、皆さん元気に完治しています。小学校では低学年のクラスを中心に、学級閉鎖、学年閉鎖も行なわれており、学校へ行けない生徒も多数出ています。

成人クラスにしましては、今のところ大きな流行は有りませんが、インフルエンザ患者の出たご家庭のご両親など、大人の方への感染も、あまり無いようです。一部の報道にあるように、今回の新型インフルエンザは、幼児・児童への感染力が強いようです。しかし、タミフルへの耐性を持つインフルエンザウイルスが出て来ていると、今後どのような方向へ変異するかも判りませんので、成人の方々も充分にご注意下さい。

さて、当スクールでのインフルエンザへの対応についてですが、下記のように決めさせて頂きましたのでご協力をお願い致します。

当初発表のものの内容を一部訂正させて頂きましたのでご注意下さい。

メイン材料としての制作です。工作キットなどの材料のパッケージでの制作に慣れてしまっている子供にとっては、単純な素材で自由に工夫して制作する事ほど難しい事は無いのですが、今回参加してくれた子供達も、最初は戸惑っていましたが、段々と知恵を使って制作し始めて、最後には『本当に新聞紙で出来るの?』と言う程の作品も多数出ました。

今回の『夏のアート』も、お陰様で楽しく充実した時間になりました。来年度も又、面白い制作が出来ると楽しみにしていますので、次回も宜しくお願い致します。



小学生クラスの版画制作について

十一月より、小学生クラスでは木版画の制作を行ないました。季節的にはクリスマスカードや年賀状の制作が出来ると良いと思いますので、生徒にそれぞれ選択して制作に入ってもらいます。

今回は木版画ですので、やはり彫刻刀を使用致します。小学校では3、4年生になると彫刻刀を使った授業を行うようですが、当ス

幼児/小学生/小・中学生クラスの生徒さんは学級閉鎖等で学校がお休みになりましたら、アートスクールもお休みするのが良いと思います。その場合、何回も休みが続いてしまえば、制作が出来なくなる事も有り得ますので、スクールでは本人の体調に変化がない場合は、スクールへの参加を可能にする事とさせて頂きます。

学校等では、出来るだけ塾などの習い事は欠席するように指導されている所も有るようですが、アートをスクールは比較的少人数での授業を行っていますので、このようにさせて頂きました。

学級閉鎖等になった場合は、スクール前に熱を計って頂き、特に体調などに異常が無い場合はマスクを着用の上お越し下さい。スクールでは、手洗い・うがい・消毒などを、いつも以上に行なうように指導します。

また、ご家庭の判断でお休みになりたいた場合はそのようにして下さい。

その他のクラスでも、手洗い・うがいは、いつも以上に徹底して行なうようにしましょう。

もし、体調不良になりましたら、早めに医療機関へ相談し、受診するようにして下さい。

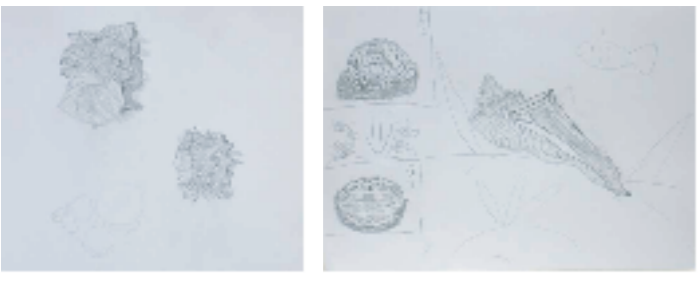
ご家族がインフルエンザに感染した場合で、本人の体調に異常が無い場合は、マスク着用の上お越し下さい。その場合は、ひと言お知らせ下さいませようお願いします。

もし、インフルエンザに掛かってしまったならば、早めに治して免疫を作りましょう！

クールでは1年生から彫刻刀を使った制作をしてもらいます。低学年の生徒さんにとっては、怪我のリスクを伴った、少々危険な制作ですが、緊張感を持ちつつ真剣に制作をする体験を通して、毎回大きく成長するお子さんが多くいらっしゃいます。今回も彫刻刀による怪我が無いように、低学年の生徒さんにも理解できるように説明と練習をし、講師も生徒も十分に注意して制作を致します。しかしながら、毎年小さな怪我をする生徒が居りますし、今年もどなたかが指を切るなどの小さな怪我をするかも知れませんが、ご理解とご協力を頂けますよう、宜しくお願い申し上げます。

作品紹介

写真は先日小学生クラスでの自然物(サザエ、巻貝など)をモチーフとしたデッサン作品の一部です。この他にも沢山の良い作品が有りました。どの生徒も興味を持って、集中して描けたので自然と名作が多く出ました。



夏のアトリエ報告

夏から秋、すでに冬も近づいておりますが、ここで『夏のアトリエ』の報告をさせて頂きます。

今回の夏のアトリエでは、例年通りに『幼児クラス』『小・中学生クラス』『成人クラス』の3クラスを、それぞれ前期と後期の2回ずつ行ないました。



成人クラスでは、毎年行なっていた『粘土による首像の制作』を一時お休みとして、前期と後期の二回をモデルさんを使った平面作品の制作とさせて頂きました。前期の女性モデルと後期の男性モデル共に、大変好評でした。今回のように前後期二回のモデル制作が有ると、両方に参加された生徒さんは、前期の問題点や新たな課題などを、後期の制作で継続して探求出来るので、とても効率が良い事も判りました。



編集後記

デッサンの紹介記事にも有りましたが、小学生に限らず、興味を持って観察し、楽しく描ける環境を整えられると、デッサンなどは作品が良くなります。描く技術よりも積極的な気持ちの方が遥かに大切ですね。逆に、いくら技術が有っても、描く楽しさや積極性を伴わないと、非常に悲しい結果になります。この場合、技術が有る程一層悲惨な事になります。

先日(随分前になりますが...)テレビの報道番組の中の話で、『笑いの授業』を小学校で行なったという紹介が有りました。コミュニケーションのプロが、他人に好かれて物が上手く運ぶような笑顔の作り方を小学生にレクチャーしたと言う事でした。

何て馬鹿な事を!企画に参加した教育者の顔が見たい。笑顔とは楽しかったり、嬉しかったりした感情を感じた時に、自然とこぼれ出るものです。楽しくなければ笑わなくても良いのです。なぜ、嘘偽りのない自分の感情に蓋をして、コミュニケーションの為に笑いを学ぶ必要があるのだろうか? 嘘の笑いを覚えた子供の、本当の笑いは何処へ行くのか? そんな嘘のつき方を覚えなくても、子供達はいつも、素敵な笑顔で自然に笑っています。

本来、素直な笑顔は自然な形で出す事が出来なくなってしまうと、ひねくれた大人の為の対処療法としてのレクチャーを、健康な未来ある子供に行なってしまうのだからか? まさに本末転倒な事態に陥ってしまった感じがします。

現代の世の中には、前記のような事が数多く起こっているようです。大人がもっとしっかりしなければ... (鐵)